

災害への準備は万全ですか？

備えあれば憂いなし！

地震や豪雨などの災害は、いつどこに襲ってくるかわかりません。市内の避難場所や非常持ち出し品の確認など、一人ひとりが日ごろから災害への備えを心がけておくことが大切です。東日本大震災の教訓を活かし、この機会に家庭や地域、職場などで再確認をしましょう。

【災害被害を少なくする「自助」・「共助」】

大地震や豪雨などの自然現象は、人間の力ではくい止めることはできませんが、災害による被害は、日ごろの努力によって減らすことが可能です。

行政による「公助」は言うまでもありませんが、自分の身近に守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。

ただし、身のまわりの人を助けるには、まず自分自身が無事であればなりません。「自助」があつての「共助」です。災害が起きてからでは間に合いません。普段できていないことを災害時に行うことはできません。平時から、「自分でできること」、「家族でできること」、「近所と力を合わせてできること」などについて考え、いつ来るかわからない災害に備えておくことが大切です。

【災害から命を守る】

■地震災害

近年、テレビや新聞、雑誌でさかんに防災や減災の取り組みが紹介されています。特に、ご家庭や暮らしの中のひと工夫で実現できる「家具の転倒・落下防止」については、さまざまなグッズやアイデアが紹介されています。大地震のときには、多くの方が「家具類の転倒・落下」によって負傷してしまうこともわかっていきます。家庭内に「安全空間」をつくっておくことで、災害時に安心して暮らせます。「大地震では、家具は必ず倒れるもの」と考えて、お部屋の総点検を行いましょ。その際にチェック・実践すべき点は次の5つです。まずは、できる部分からはじめましょ。

- 家具は、倒れる向きを考えて配置しましょ。
- 家具部屋を作りましょ(寝室や居間として使用しない)。
- 作りつけの家具を使いましょ。
- 寝室には家具を置かないよ

■「水害・土砂災害」

近年、全国各地で大雨の被害が相次いでいます。ごく限られた範囲に、短時間に、極めて大量の雨が降る短時間強雨が頻発し、大きな被害をもたらしました。台風だけでなく、こうした大雨にも注意を払いましょ。集中豪雨や長雨などで地盤がゆるむと、土砂災害(がけ崩れなど)が発生しましょ。

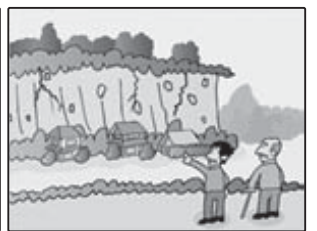
国や地方自治体では危険な箇所をあらかじめ想定し、さまざまな対策を行つていますが、土砂災害が心配される地域に住む皆さんが、危険をいち早く察知し、素早い行動、避難につなげることが被害を軽減するうえで最も大切です。



①がけから小石がパラパラと落ちてくる。



②がけから水が湧き出ている。



③がけに割れ目が見える。

【つくばみらい市

ハザードマップ】

つくばみらい市ハザードマップは、地震・洪水の自然災害が発生した場合の被害のようすや、避難・救援活動に必要な情報が掲載されている地図です。家族みんなで確認しましょ。ハザードマップは、市役所伊奈庁舎・谷和原庁舎の市民窓口課で配布しています。